



NPO法人ビッグイシュー基金  
第2期(08年9月～09年8月)  
年次報告書



2009年11月1日  
発行 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金  
〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4F  
TEL 06-6345-1517 FAX 06-6457-1358  
〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室  
TEL 03-6802-6073 FAX 03-6802-6074  
E-mail info@bigissue.or.jp URL <http://www.bigissue.or.jp>

写真: 高松英昭写真集「STREET PEOPLE」より(太郎次郎社エディタス)

# 理事長あいさつ

## はじめに 原点、路上からの市民運動の展開

あなたさまをはじめ、みなさまのお蔭で、ビッグイシュー基金の2期目(08年9月～09年8月)の活動を終えることができました。

基金の2年目は9月15日のリーマンショックによる世界的な金融危機で幕をあげました。世界同時不況という五里霧中の状況下、これまで通りの活動でよいのか?どのように展開すればよいのか?考えてもわからないことばかりでした。

そこで私たちは、基金の日常活動である生活、就業、スポーツ文化活動、市民参加の4つの基本プログラムを粛々と続ける一方、社会や世界に生起する諸問題であって基金にかかわりがあると思われることへ、社会貢献という視点をもって全力でかかわっていきました。私たちには、それしかなかったというのが正直なところでした。

それは、定例サロン、パーソナルコーチング、パーティ、夜回り、就業体験バスツアー、講座、ライブ・表現発表会、路上パフォーマンス、展覧会、国際大会、市民集会、ホームレス会議、調査、路上脱出ガイドの作成と配布など、一昨年度以来、積み重ねてきたさまざまな活動の形をさらに豊かにしていくことで展開されました。なかでも、路上に出ざるを得なかった多くの若者を中心としたホームレスの人々への情報提供、「路上脱出ガイド」は大きな反響がありました。瞬く間に東京、大阪で16,500冊配布しただけでなく、日ごろ身近にいるホームレスの人のことを気にしている多くの市民が配布に参加し、排除されているホームレスの人々と語り合い、つながりあう市民運動になりました。

これらの活動に、多くの方々のご関心と応援、ご参加をいただきました。1,030人の賛助会員や個人寄付者、285人のボランティア、19の寄付団体・企業、はほんの一部にしかすぎません。また、不況下にもかかわらず、多くの寄付や資金の提供もしていただきました。昨年度を一割上回った賛助会費、企業・団体による昨年度の10倍近い寄付、なかでも申請していただいた助成金は1千万円近くに上りました。感謝の言葉もないほどです。本当にありがとうございました。

ご協力いただいた多くの個人、市民の方々、企業、団体、行政機関などのみなさまに、改めて心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2009年11月1日

NPO法人 ビッグイシュー基金

理事長 佐野章二



## 目次

理事長あいさつ	2
目次・活動概要	3
生活自立応援事業	4
就業応援事業	6
文化・スポーツ活動応援事業	7
広報・市民参加	8
決算報告	9
ビッグイシュー基金とは	10



## 活動概要

08年9月のリーマンブラザーズの倒産を引き金にした世界的な金融危機の余波を受けて、ある日突然仕事を失って、そのまま路上に投げ出されるといふ人々が急増しました。この危機的な状況にどう立ち向かうのか？ 基金では、路上で暮らす多くの人々がひとりでも多く畳の上になり上がり、普通の暮らしを取りもどすため日常の活動を続け、これを強めていくこと。そして、多くの市民とともに困難を乗り越えるための提案をし社会に働きかけることを、最重要課題としました。それは主に、以下の3つの活動となりました。

「路上脱出ガイド」の作成、発行、配布

路上を生き抜き、そこから抜け出すために必要な情報を市民団体とともに「路上脱出ガイド」としてまとめ、多くの市民とともに配布しました。

若者ホームレス調査の実施

路上に出、暮らさざるをえなかった40歳未満の若いホームレスの人々にヒアリングを行い、彼らが抱える困難な問題や支援方を検討しました。

ホームレス・ワールドカップ2009ミラノ大会への参加

ホームレスサッカーワールドカップのミラノ大会に参加。世界同時不況下だからこそ、その被害者になってしまったホームレスたちが、サッカーを通して全世界に貧困問題の解決と元気を発信することを目指しました。

世界的な金融危機下、基金の財源となる寄付も、当然減少することが予想されました。しかし、当初予算を大きく上回る寄付や助成金をいただくことができました。これにより、上述の活動以外の日常プログラムもスケールアップし、多くの実験的なプログラムを組むこともできました。例えば、大阪で200人近くの市民の参加を得て行った「大阪ホームレス会議」、ホームレスの人自身による写真展「大阪“路上”の風景」、初めてのバス旅行「むかご」ツアーを皮切りとする農林業体験研修ツアー、NECと連携した「IT研修講座」、などです。

# 生活自立応援事業

一人でも多くの方が、路上にとどまることなく、畳の上上がることを第一に考え、路上脱出ガイドを作成、配布しました。また、最近増えつつある40歳未満の若者ホームレスが、路上に固定化されず、一日も早く社会に復帰する道筋を用意することを目指し、調査を行いました。また、健康や依存症、住宅、福祉相談などの各種相談業務も行いました。

## 路上脱出ガイド

08年秋以降の世界同時不況の影響で、路上にあふれた人々が路上を生き抜き、そこから脱出するために、必要な様々の情報を1冊の冊子にまとめた『路上脱出ガイド』を発行、配布しました。大阪編と東京23区編をそれぞれ作成。内容は、炊出しの情報や体調が悪いときの相談窓口など、命をつなぐために必要な最低限の情報から、自立支援センターやハローワークなど、仕事に就くための情報、生活保護の申請などについて紹介しています。

ガイドは定期的に夜回りを行って配布し、すでに8月末までに、大阪で5,500冊を、東京で11,000冊を配布。また、近所にいるホームレスの人に配りたいという市民からの問い合わせが殺到し、ガイドの多くが市民の手から直接ホームレスの人々に手渡されました。



『路上脱出ガイド』東京23区編(左:表紙 右:もくじ)

## 当事者の声

「つい最近まで生活保護をもらい寮に住んでいましたが、環境に馴染めず寮を出ました。後悔していましたが、ガイドを見るまで生活保護の申請は一度しかできないものかと思っていました。何度でも申請できることを知り、もう一度チャレンジしてみようと思います」



路上脱出ガイドを受け取る当事者

## 若者ホームレス調査

最近、40歳未満の若者ホームレスが急増しています。そのため、若者がホームレス化するプロセスや実態を明らかにすることが急務であると考えました。

ビッグイシュー販売者を中心に、18名の若者ホームレスにヒアリングを行なった結果、彼らの多くは家族との関係に問題があり、2割弱の人々が施設で育つなど、自分の居場所を持ちにくい状況に置かれていました。また仕事では、ポジティブな体験が持てず、職場が変わるたびに不安定になっていき、この間ほぼ全員がいじめや人間関係のトラブルを体験していました。その結果、他人との関係をうまくつくることができず、人との関係が先細りになり、路上に出ています。さらに、半分以上の5~6割の人々が、ホームレスになっていくプロセスや過酷な生活の中で、「うつ的な状態」など、心を病んだことがわかってきました。そんな彼らが望むのは、人とつながるより一人であることなのです。

雇用の受け皿の決定的な不足など、年配ホームレスを取り巻く“仕事のハードル”に加え、若者ホームレスには“心のハードル”といえるものがあります。それに加え、彼らには経験不足など“若さのハードル”があります。ホームレス状態のNさん(27)は言います。「仕事はあるんですけど、勇気が持てなかったんですよ。仕事しないているのは不安ですけど、過去に職場でいじめられたトラウマと両方並列しているんですよ。壁の上に壁があって、あがれないって感じなんです」

今後はさらに調査を深め、当事者のリアルな声を社会に届けること、そして若者ホームレスを生み、放置している社会のほころびを明らかにし、社会の再生にもつながる新しい支援方策を提言することを目指します。

## 相談プログラム

### 健康相談

大阪では、大阪府保険医協会の協力を得て、毎月1回内科と歯科の健診を、東京では、08年11月よりボランティア歯科医師の協力を得て、3ヶ月に1度歯科健診を行いました。さらに東京では、保健所や結核研究所の協力を得て、結核の予防や治療などについて正しい知識を学ぶ講習会や、大塚製薬の協力を得て熱中症予防勉強会なども行いました。また、日常生活においては、随時健康相談を受け付け、UBSグループよりご寄付いただいた医薬品や、フードバンク関西とセカンドハーベストからいただいた食品を提供したり、治療が必要な場合は福祉を利用するためのサポートを行ったりしました。

### 依存症相談

大阪では、週に1度カウンセラーが事務所に待機し、アルコールやギャンブルの依存症に悩む人のカウンセリングを行いました。また、任意でお金を預かり金銭管理のサポートをすることで、アルコールやギャンブルに手を出しにくい環境をつくっています。

### 住宅相談

保証人不要の低家賃住宅を支援者などよりご提供いただき、9名の方がアパートに入ることができました。入居後も継続して家賃を払い続けていくため、金銭管理のサポートなども行っています。



むかご収穫バスツアー

### 福祉相談

『路上脱出ガイド』の配布後、福祉相談が増え始めたため、独自に対応する体制を整えつつあります。相談者は、大阪で7名、東京で15名。生活保護申請書の書き方をレクチャーしたり、申請に同行したりしました。



大阪ホームレス会議

### 金銭管理

路上は盗難にあう危険が高く、また住所や身分証明書がないことから銀行口座をもつことも容易ではありません。そのため、希望するホームレスの方たちからお金を預かり、個別の通帳をつくって金銭管理のサポートをしました。大阪では11名が、東京では20名が利用しています。また、金銭管理を学ぶマネー講座も実施しました。

## つながり回復プログラム

### 夜回り

積極的につながりをつくるためのアウトリーチとして、多くの市民ボランティアとともに定期的(大阪東京合わせて50回程度)に夜回りを実施。食料やカイロ、路上脱出ガイドなどを手渡し、困ったことや不安なことがないか、聞いてまわりました。

### 道端定期交流会

ホームレスの人たちが集う場所に出向き、映画鑑賞会や音楽の演奏会など、気軽に集える交流会を実施しました。ここでのつながりがきっかけとなり、サッカーに参加するようになった人や、畳の上が上がれた人もいました。

### 定例サロン

ホームレスの人々とボランティアが交流したり、情報交換を行う定例サロンを、大阪・東京ともに毎月1回行いました。例えば、イメージアップ講座では、就職活動などにそなえて、洋服のコーディネートやコミュニケーションのノウハウを学んだ後、古着を活用し、当事者自身がモデルとなったファッションショーを行いました。その他にも、NPO救急救命バイザシチズンの協力を得て心臓救命装置「AED」の講習会、マネー講座、コーチング講座、亡くなったホームレスの方の追悼会、お花見、クリスマス会などを実施しました。

### むかご収穫バスツアー

08年10月、むかごを収穫するため、ビッグイシュー初のバスツアーを開催しました。18名のホームレスの人々が参加し、チャーターした50人乗りのバスで埼玉県熊谷市妻沼へと向かいました。地元の農家の方と共同してむかごを収穫し、農道でミニ運動会も行ない、交流を楽しみました。

### 大阪ホームレス会議

08年11月、ホームレスの人々の思いを発信するためのイベント「ホームレス会議」を、大阪の厚生年金会館で行いました。第1部では、生田武志さん(『ルポ最底辺』著者)と東富彦さん(NEC社会貢献室室長)を迎え、5名の当事者がホームレスの人々が生きる日常と、もっと生きやすい社会にするための願いについて語り、第2部では、1部の語りをヒントに、200名にのぼる市民とともに誰もが生きやすい社会のあり方を考えました。

# 就業応援事業

ビジネスマナーやコミュニケーション力、ITスキルなど、基礎的な就労トレーニングをベースに、農業や林業研修など多様な仕事経験の場を提供しました。将来設計を手助けするパーソナルコーチングなど、出口を意識したプログラムを実験的にを行い、今後さらに踏み込んだ就労支援を行っていくための土台を築くことができました。

## パソコン講習

東京では、08年11月から09年1月まで、NEC、NPO法人品川ITサポーターズ、オフィス企画室の協力を得て、IT研修講座を行いました。WEBメールを使いこなせるようになることを目指して、電源を入れるところから始まり、メールのマナー講座まで、全8回にわたって講座を行い、最終試験には6名が合格。さらに、学んだ技術を日常の中で実践するために、雑誌ビッグイシューをメールを使って販売するメール販売を試験的に行いました。大阪では、ボランティア講師の協力を得て、月に2回パソコン講座を実施し、ワードやエクセル、ブログなど、様々な技術を身につけました。

## 就労体験

09年3月、農林水産省の農村活性化人材育成派遣モデル事業“田舎で働き隊！”プログラムに3名が参加。2泊3日の農業研修でジャガイモの植えや畑の草むしり、ビニールハウスでの水やりなどを体験しました。さらに、5月には、NPO法人「森の蘇り」の協力を得て、11名が林業体験に参加。手で樹皮をむく省力的な間伐手法である“皮むき間伐”を体験し、森林保全についても学びました。



NECとともにいったIT研修講座



皮むき間伐を行った林業体験

## パーソナルコーチング

パーソナルコーチングは、“コーチ”と呼ばれる専門家と1対1でじっくり会話する時間を定期的にもち、未来の目標を自分自身で見つけ、実現していく手助けをするものです。大阪では13名が、東京では4名がコーチングに参加。参加者へのアンケートでは、半数以上が「将来のことを考えられるようになった」と答えています。

### コーチングに参加するMさん(46)

「詰め込んだまま開かなくなっていた心の引出しを整理して、どれを最初に出すかわかった感じがしました。自分で考えて、いろいろな選択肢があるということに気がきました。そして、今までは考えただけで行動に移せなかったけど、今は目標に向かって前に進んでいます」

## 就職支援

履歴書の書き方のレクチャーやコミュニケーション力、ビジネスマナー講習など、基礎的な就労トレーニングを実施。また、介護ヘルパー、タクシードライバー、土木作業、調理関係、大手衣料品店など、計14名が就職しました。さらに、就職した後も連絡をとって、近況を尋ねたり、クラブ活動やボランティア活動への参加を呼びかけたりすることで、つながりを保つことを心がけています。

### 自立した横内真人さん

「08年の12月に、住み込みの新聞配達の仕事に就くことができました。就職した後も、ビッグイシューでボランティアをしているのは、仕事のリフレッシュになるから。それから恩返しもしたくて。今は、夢だった大型家具店で働くことを目指して、自分のアパートを借りるためにお金を貯めています。」

## ヘアカット

大阪、東京それぞれで、プロの美容師の協力を得て、ほぼ毎月、無料のヘアカットを行いました。身だしなみを整え、自信をもつことも、自立に向けた大切な一歩です。

# 文化・スポーツ活動応援事業

仕事と家の喪失に加え、身近な絆を失い“一人ぼっち”になることで、人は希望を失いホームレスになりホームレスになります。そこで、一度否定した自分を再び肯定して、人とのつながりや生きる喜びを回復するため、ミラノでのホームレス・ワールドカップへの参加をはじめ、ダンスや音楽などの様々なクラブ活動を実施しました。

## ホームレス・ワールドカップ

ホームレス・ワールドカップは、世界に共通する貧困問題の解決を訴え、同時に貧困状態にある人たちが喜びや希望を回復することを目指して、毎年行われるミニサッカーの世界大会です。日本は、04年のイェーテボリ大会(スウェーデン)に初めて参加。09年ミラノ大会(イタリア)へ2度目の参加を目指し、大阪と東京でクラブ活動を発足し、練習に励んできました。

その結果、“野武士ジャパン”と名付けられた8名の日本代表チームを、ミラノ大会へ送ることができました。世界同時不況下だからこそ、その被害者になってしまったホームレスたちが、サッカーを通して全世界に貧困問題の解決や元気を発信する。その様子は、日本でも新聞やテレビ、ラジオ、WEBなどさまざまなメディアで紹介され、ホームレス問題への関心を喚起することができました。また、参加した選手たちの多くは、希望や家族・友人とのつながりを回復したり、仕事の面接が決まったりと、前向きな一歩を踏み出しています。

メンバーのNさんは、「ワールドカップはゴールではなく始まりなので、この経験を生かして、カウンセラーやヘルパーなどの資格の勉強をしたいと思っています」

また、金融危機下にもかかわらず、東京にある内外の金融機関で働く人々による第4回FITチャリティ・ランをはじめとする、多くの市民の方たちからのご寄付、さらに、運営や広報などをボランティアとしてサポートしてくださった方たちの協力など、本当に多くの市民の支えにより参加が実現しました。



(C)Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

日の丸を掲げたメンバーたち

## OHBB(大阪ホームレスビッグバンド)

大阪のビッグイシュー販売者らが中心となって行う音楽クラブ「OHBB(大阪ホームレスビッグバンド)」のサポートをしています。曲は当事者が作詞したものに、スタッフやボランティアがメロディーをつけたもので、現在11曲のオリジナル曲があります。毎月2回練習を行い、大阪ホームレス会議やクリスマスパーティなどでライブ演奏をしました。

## コンテンポラリーダンス“ソケリッサ”

ストレッチやコンテンポラリーダンスなど、身体を使った表現活動を楽しむクラブ。プロのダンサーアオキ裕キさんらの協力を得て、“ソケリッサ”と題した公演を行ってきました。今年度は、場所を野外に移し、井の頭公園で路上パフォーマンスを行っています。木漏れ日が入る森の中で、木の葉の絨毯を踏みしめるパフォーマンスは、ダンスの原点をより強く感じさせるものとなりました。

## 写真展「大阪“路上”の風景」

写真好きの当事者(23名)が集い、慣れ親しんだ大阪の街や、自分たちの暮らしや仲間を撮影する写真クラブ。その延長で、1週間にわたって写真展「大阪“路上”の風景」を開催しました。撮影は簡便なフィルム付レンズで行いましたが、路上に暮らす人々ならではの近い目線から撮った様々な風景は、多くの人気がつかない様々な街の姿をリアルに伝えるものでした。来場者数は会期中合計で500名を超えました。

## その他クラブ活動

その他にも、当事者が企画し、市民とともに大阪の街を歩く「歩こう会」や、卓球クラブ、ヨガ、映画鑑賞会など、多くの人気が気軽に参加できるように、多様なクラブ活動を行いました。



森の中でおどるソケリッサ



「大阪“路上”の風景」よりHさん撮影

# 広報・市民参加

“貧困”の最も顕著な現れともいえるホームレス問題は、当事者や支援団体、行政だけでなく、社会全体で取り組むことではじめて、解決に向けて動き出すのではないのでしょうか。排除するのではなく包摂する社会を、ともにつくっていききたい。ビッグイシュー基金は、「市民が市民をサポート」することをモットーに、市民応援会員やボランティアスタッフなどを中心に、日頃から多くの市民のみなさまの協力を得て、活動しています。この結果、予想を大きく上回る寄付や助成金が集まり、賛助会費も1割の増加となりました。「ホームレス問題」を市民自身のものとする動きも生まれつつあります。また、多くのボランティアの参加や物品の寄付などもありました。

## 【ボランティアスタッフ】

夜回りへの同行や医療相談、パソコン講座の講師、事務所内での作業など、それぞれの専門を生かし、多様で個性豊かなボランティアスタッフが、日常の活動を支えています。2009年8月現在のボランティア登録者数は、大阪が159名、東京が126名の計285名になりました。

### ボランティアスタッフ大竹修さん

路上支援関係のボランティアは経験していたので、路上の方への知識はありますが、ビッグイシューにいるホームレスの方は、路上の方と少し雰囲気違います。それは社会につながっているという意識なんだと感じます。社会につなぐ、それだけでなく人としてきちんとケアをしているスタッフ達。私はこの団体に関わられた事を心から感謝しています。

## 【市民参加イベント】

08年度の基金の活動は、東京では、茂木健一郎さん、香山リカさん、大津和夫さん、大阪では、雨宮処凛さん、生田武志さんなどを招いて行った、ビッグイシュー基金1周年記念シンポジウムで幕をあげました。東京では400人、大阪では150人を超える多くの市民が集い、ビッグイシューとこれからの日本社会の関わり、そして社会を担う若者の未来をともに考えました。

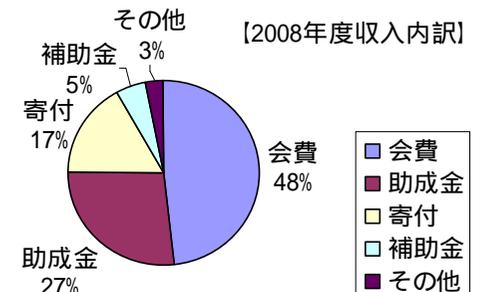
## 【ビッグイシュー基金市民応援会員】

ビッグイシュー基金の賛助会員として、活動を支えてくださっているみなさまです。

### 賛助会員数(2009年8月現在) 799人

あか抜け応援会員……………31人  
ぐっすり応援会員……………181人  
にっこり応援会員……………427人  
ひとり立ち応援会員……………127人  
巣立ち応援会員……………32人  
社会再生・サポーター会員…1人

会員以外の個人寄付者数 231人



## 【助成金】

NPO法人JBC・CSR基金  
NPO法人自立生活サポートセンター・もやい  
カリタスジャパン  
生活協同組合パルシステム東京  
日本電気  
FITチャリティ・ラン  
連合「雇用と就労自立支援カンパ」

## 【補助金】

大阪市

## 【企業・団体寄付】

アサヒビール(株)アサヒワンビールクラブ  
(株)アクセス・テクノロジー  
(株)北大路書房  
Give One(オンライン寄付サイト)  
共同カイトック(株)  
ソケリッサ実行委員会  
日本財団  
日本ビューレット・パッカー(株)  
三井化学(株)チビットワンコイン  
UBS証券会社

## 【物資の寄付】

大月プランニング(フリース)/KEEN Japan(くつ、サンダル)/日本ビューレット・パッカー(株)(パソコン・プリンター)/認定NPO法人フードバンク関西・NPO法人セカンドハーベストジャパン(食料品)/BASFアグロ(株)(CDコンポ、水筒など)/UBS証券会社(医薬品・食品・衣類など)/その他個人の方々から、衣類やテレフォンカードなどを中心に、多くの物資をご寄付いただきました。

# 2008年度決算報告

【収支計算書(2008年9月1日～2009年8月31日)】

科目	金額(単位:円)	
I 経常収入の部		
1. 会費収入		
年会費	17,636,900	17,636,900
2. 助成金・補助金収入		
助成金	9,942,519	
補助金	1,965,667	11,908,186
3. その他収入		
寄付金	6,192,138	
受取利息	2,454	
雑収入	942,405	7,136,997
経常収入計		36,682,083
II 経常支出の部		
1. 事業費		
生活自立応援費	7,129,694	
就業応援費	2,324,099	
スポーツ・文化応援費	5,136,612	
広報活動費	3,596,620	
その他(市民啓発他)	4,341,800	22,528,825
2. 管理費		
家賃(光熱費含)	3,046,672	
事務費(人件費)	2,054,465	
通信費	429,229	
荷造り運賃費	1,114,308	
旅費交通費	829,449	
事務消耗品費	315,044	
総会理事運営費	155,670	
雑費	411,470	8,356,307
経常支出計		30,885,132
経常収支差額		5,796,951
当期収支差額		5,796,951
前期繰越収支差額		△1,669,494
次期繰越収支差額		4,127,457

【貸借対照表2009年8月31日現在】

科目	金額(単位:円)	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	467,868	
普通預金	5,300,599	5,768,467
2. 固定資産		0
資産合計		5,768,467
II 負債の部		
1. 流動負債		
仮受金	1,641,010	1,641,010
負債合計		1,641,010
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		△1,669,494
当期正味財産 増加額(減少額)		5,796,951
正味財産合計		4,127,457
負債及び正味財産合計		5,768,467

【監査報告書】

## 2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2008(平成20)年9月1日から2009(平成21)年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。

2009(平成21)年10月8日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木原万樹子



# ビッグイシュー基金とは

## ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本( )を母体に07年9月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多様な応援プログラムを、市民の力を集めて実施し、貧困問題という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決にチャレンジし、“社会再生”市民応援事業を行います。

## ビッグイシュー基金が目指すもの

09年の厚生労働省の調査によると、現在15,759名にも上る人たちが屋根のない路上での生活を強いられています。さらに、08年秋以降の世界同時不況の影響で、雇い止めなどにより解雇された派遣などの非正規労働者の数は、23万人を超え、そのうちの3%程度の人は住居も失うとされています。

今、40歳未満の若者ホームレスが、急激に増えつつあります。社会の未来を担っていくべき若者たちが、いとも簡単に路上に投げ出され、放置されています。若者の希望を奪い、使い捨てる社会に、果たして未来はあるのでしょうか。

ホームレスやワーキングプア、これらの人々を放置することで困るのは、まずは当事者の人々ですが、実は、本当に困るのは“社会自身”なのではないでしょうか。社会自体の、問題に立ち向かい、解決する力が弱くなり、社会のつながりや連帯が失われることにつながるからです。特に、若者を路上に固定化することは、社会の基盤を弱め、未来を失うことでもあります。

ビッグイシュー基金は、生活自立、就業、文化・スポーツの3つの活動を通して、路上生活者であっても、自立を望めばだれもがその機会を持ち、生きる喜びや誇り、希望を持って生きられる社会をつくりたい。そして、社会全体がいきいきとした力をとり戻すことに、貢献したいと願っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。“無関心”であることから一歩踏み出して、まずは路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。

## 団体概要

正式名称	特定非営利活動法人ビッグイシュー基金
設立	2007年9月設立 2008年4月内閣府よりNPO法人の認証を受ける
所在地	[事務局本部] 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階 Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358 Email info@bigissue.or.jp [東京事務所] 〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 Tel 03-6802-6073 Fax 03-6802-6074
役員	理事長 佐野 章 二 (有限会社ビッグイシュー日本代表) 理事 井上 英 之 (慶應義塾大学専任講師) 枝元 なほみ (料理研究家) 米本 昌 平 (東京大学特任教授) 水越 洋 子 (『ビッグイシュー日本版』編集長) 監事 木原 万樹子 (弁護士) 相談役 雨宮 処 凜 (作家) 松繁 逸 夫 (釜ヶ崎資料センター主宰)



## 有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供すること」を目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助・自立を促すために、路上で雑誌を販売してもらい、その売上の50%以上を彼らの収入にするという仕組みをつくっています。

03年9月から09年8月までの6年間で985名が販売者に登録し、96名が仕事を獲得して自立しました。また、349万冊を販売、4億4,480万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。08年9月から09年8月までの1年間では、167名が販売者に登録、26名が自立しました。

ビッグイシュー基金では、活動を継続的に支援して下さるビッグイシュー基金応援会員を募集しています。

## 市民応援会員



あか抜け応援(学生)会員 年会費:2,500円  
[特典]会員バッジ・『ビッグイシュー日本版』最新号1冊の贈呈、  
年次報告書(年1回)・メールマガジン(不定期)の送付



ぐっすり応援会員 年会費:5,000円  
[特典]会員バッジ・『ビッグイシュー日本版』最新号1冊の贈呈、  
年次報告書(年1回)・メールマガジン(不定期)の送付



にっこり応援会員 年会費:15,000円  
[特典]ぐっすり応援会員の特典に加えて、雑誌最新号にお名前  
を掲載、会報に準じて『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付



ひとり立ち応援会員 年会費:50,000円  
[特典]にっこり応援会員の特典に加えて、雑誌に1年間お名前  
を掲載、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待(年1回)



巣立ち応援会員 年会費:100,000円  
[特典]ひとり立ち応援会員の特典に加えて、ビッグイシューバック  
ナンバー合本(非売品)の贈呈

「にっこり会員」・「ひとり立ち会員」・「巣立ち会員」につきましては、ご家族やご友人への記念日やお誕生日のプレゼントとしてお申込みいただける、「プレゼント会員制度」を設けております。プレゼント会員制度をご利用いただいた場合、会費はお申込み者ご本人にご負担いただき、その会員の特典がご家族やご友人にプレゼントされます。プレゼントされる方には、その旨カードを添えてお伝えします。プレゼント制度のご利用を希望される方は、お電話06-6345-1517またはメールinfo@bigissue.or.jpにてご連絡ください。

## 企業・団体「社会再生」サポーター

キャリア再形成・サポーター会員 年会費:250,000円  
[特典]雑誌に1年間貴社名を掲載、会報に準じて『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付、ビッグイシューバックナンバー合本(非売品)の贈呈、年次報告書の送付(年1回)、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待(年1回)、ビッグイシュー定期サロンの見学

社会復帰・サポーター会員 年会費:500,000円  
[特典]キャリア再形成・サポーター会員の特典に加えて、貴社の社員研修会への販売者やスタッフの講師派遣(年1回)、社員研修の一貫として、販売者の指導による1日街角販売体験(道端留学)や1日野宿サバイバル体験へご優待、ビッグイシュー基金のホームページに貴社名を掲載

社会再生・サポーター会員 年会費:1,000,000円  
[特典]社会復帰・サポーター会員の特典に加えて、販売者参加のイベント(ダンス公演・コンサート・サッカー)のうちご希望の1つに、協賛企業として貴社名を掲載

### (お申込み)

ホームページよりオンラインでご登録いただけます。(http://www.bigissue.or.jp 応援するには? 会員になる 市民応援会員登録フォーム)または、郵送でお申込み用紙をお送りすることも出来ますので、送付先のご住所とお電話番号をお知らせください。お申込用紙は、〒530-0003大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4FまたはFAX 06-6457-1358までお送りください。

お申込み後は、恐れ入りますが会費のご入金をお願いいたします。ご入金を確認されました時点で、郵送にて特典一式を送らせていただきます。なお、ご入金の際の名義は、お申込みの際の名義と同じものをご入力いただきますようお願い申し上げます。

### [郵便振替]

口座番号:00960-6-141876 口座名義:NPO法人ビッグイシュー基金

### [銀行振込]

銀行名:三菱東京UFJ銀行 堂島支店 普通預金  
口座番号:5370607 口座名義:NPO法人ビッグイシュー基金